

### 問題解決プロセスと留意事項

- 問題解決プロセスと各ステップの狙い・要点
- 前提条件の設定
- 問題解決のあらゆる場面で欠かせない目的達成志向
- 問題に応じて異なる各プロセス・ステップの重み
- 見直し・繰返ししながら進む問題解決のプロセス
- アイディア創出の方法（参考）

問題解決プロセスについて、より深く学習するには、論理思考講座、「第2章 問題解決の主役はロジカルシンキングである (<https://www.ltkensyu.com/logicalthinking/1-2/2-3#link23>) 」をご参照ください。

# 問題解決プロセスと各ステップの狙い・要点

1

## 課題形成

課題を明確にし、目的達成のための本質的解決策の基本方向を明らかにする

1-1 問題の把握と情報収集

問題の概要把握、目的・背景理解に立ち、問題に関連する情報を収集する

1-2 本質的問題の発見（分析）

問題の本質を明らかにする

1-3 課題化（整理・統合）

課題を明確化してゴールを設定し、解決策の基本方向を明らかにする

2

## 解決策立案

解決策の基本方向に沿った、最適な解決策を選択する

2-1 枠組み設定とアイデア出し

解決策の基本方向に沿った、解決策案の中から最適な解決策を選択する

2-2 解決策の仮設定

複数の解決策の中から、最適な解決策を選択する

2-3 解決策の仮設検証

実行する解決策案が目的達成となることを検証する

3

## 実行

実施する解決策を関係者と共有・納得の上で計画的に進め、状況の変化に対応する

3-1 結果と論理の明確化

ここまでのプロセスを振り返り、関係者の説得が可能な結果と論理であることを確認する

3-2 キーパーソンの説得と実行

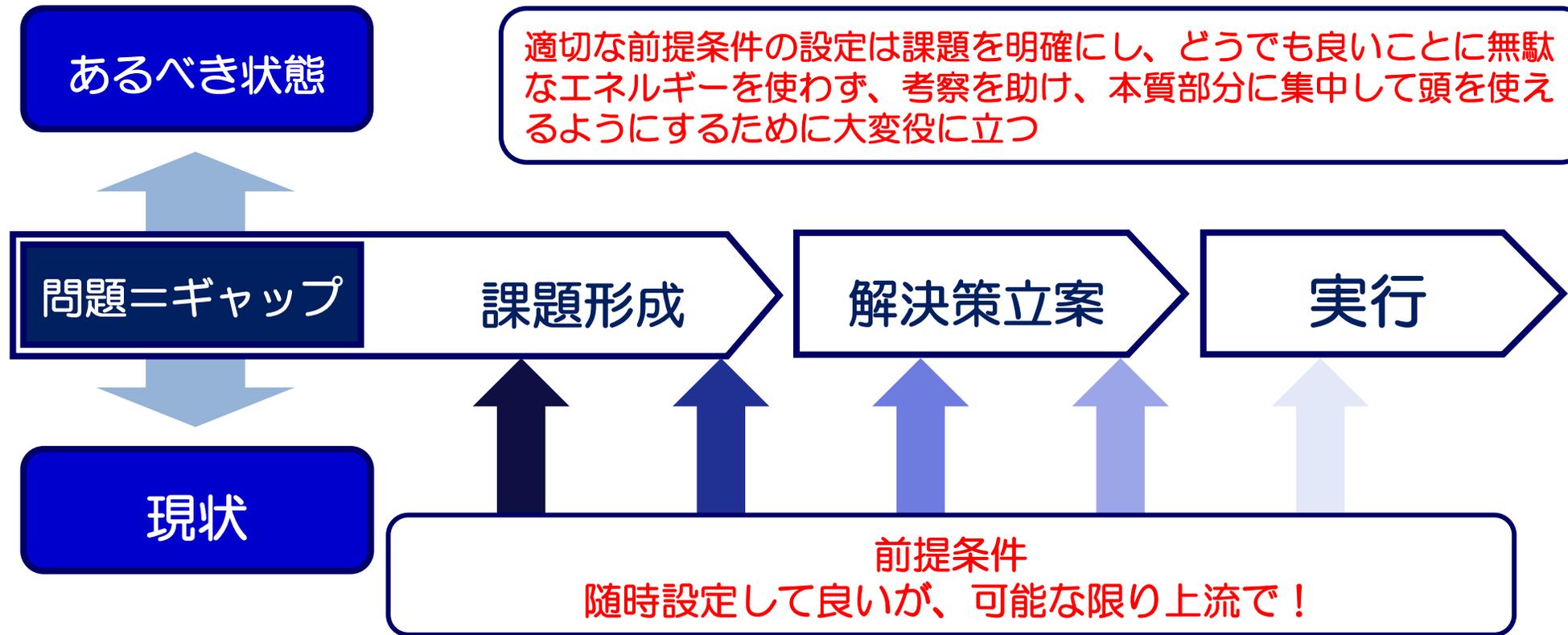
キーパーソンと共有し、実行計画を立て推進する

3-3 モニタリングと見直し・修正

絶えず、進捗状況を把握し、状況の変化に適切に対応する

# 前提条件の設定

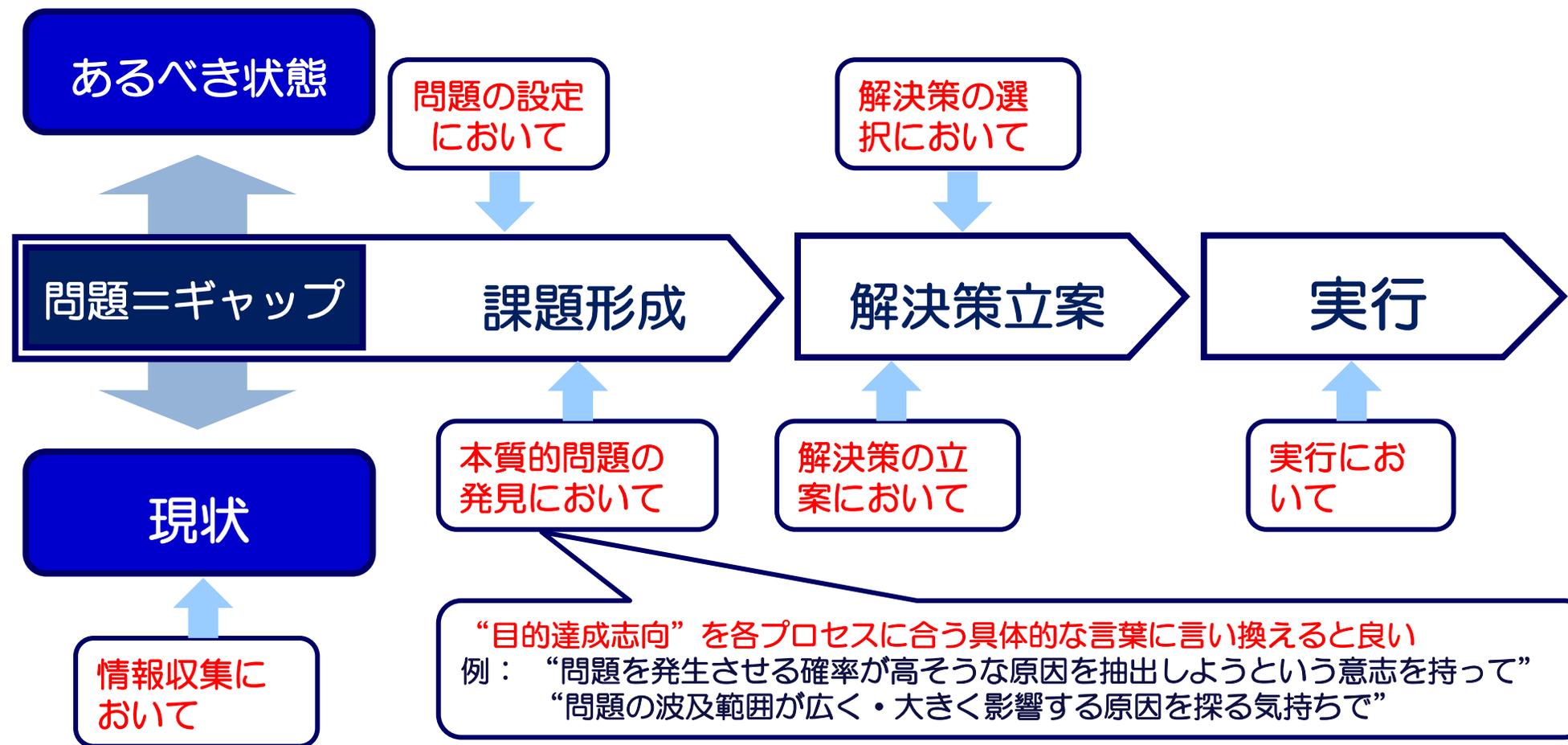
問題解決に際しては、可能な限り「より上流プロセス」において、不合理でない適切な前提条件を明確に設定して進むべきである。（しかし、実際は下流プロセスに進んでから前提条件の設定必要性に気づくことも多く、必要な段階で随時設定しても良い。）



一方、制約条件や与件として認識している前提条件には注意が必要であり、それらの前提条件に対しては「本当にそうなのか」と疑いの目を向けて再検討することも大いに意味のあることである

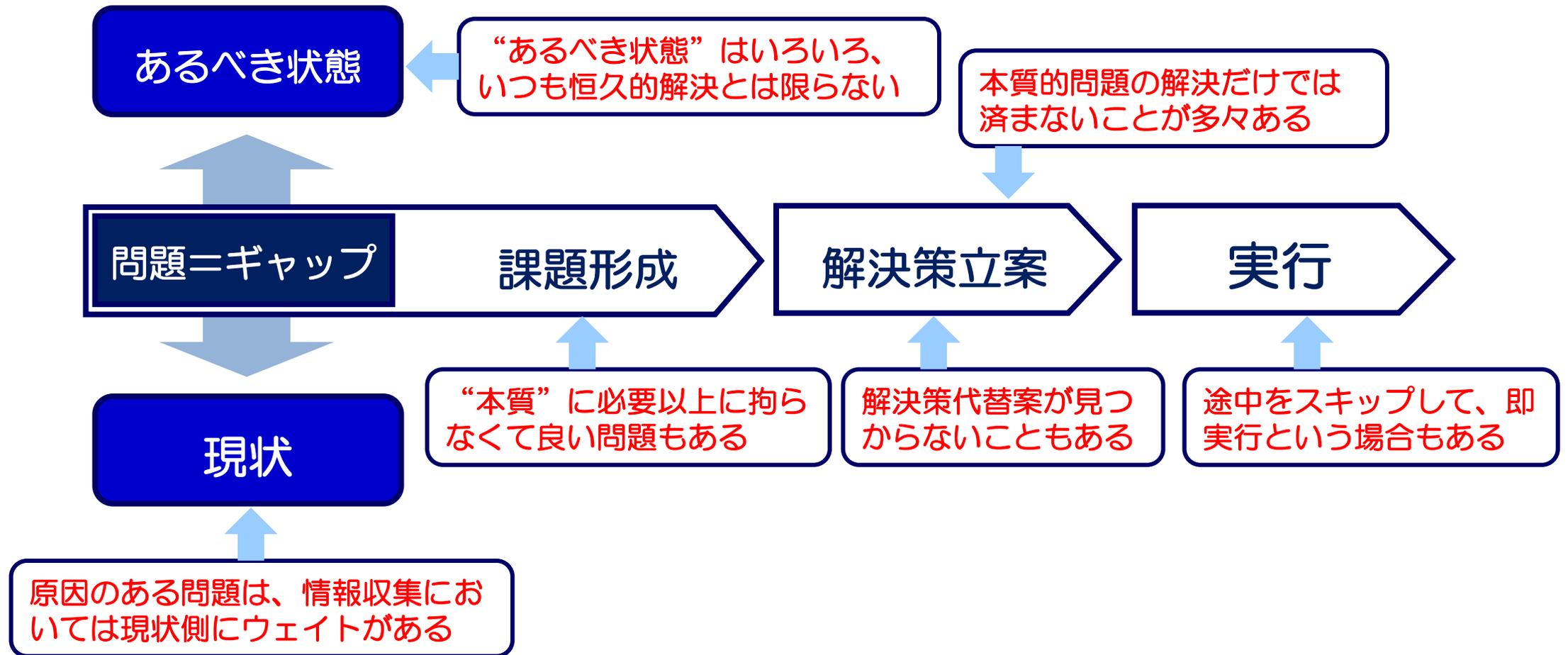
# 問題解決のあらゆる場面で欠かせない目的達成志向

問題解決の如何なる場面においても、常に「問題解決のあるべき状態」を念頭に置き、各プロセス毎にどのようなことを目的として取組んでいるのかを意識して、即ち、“目的達成志向を持って”臨む必要がある



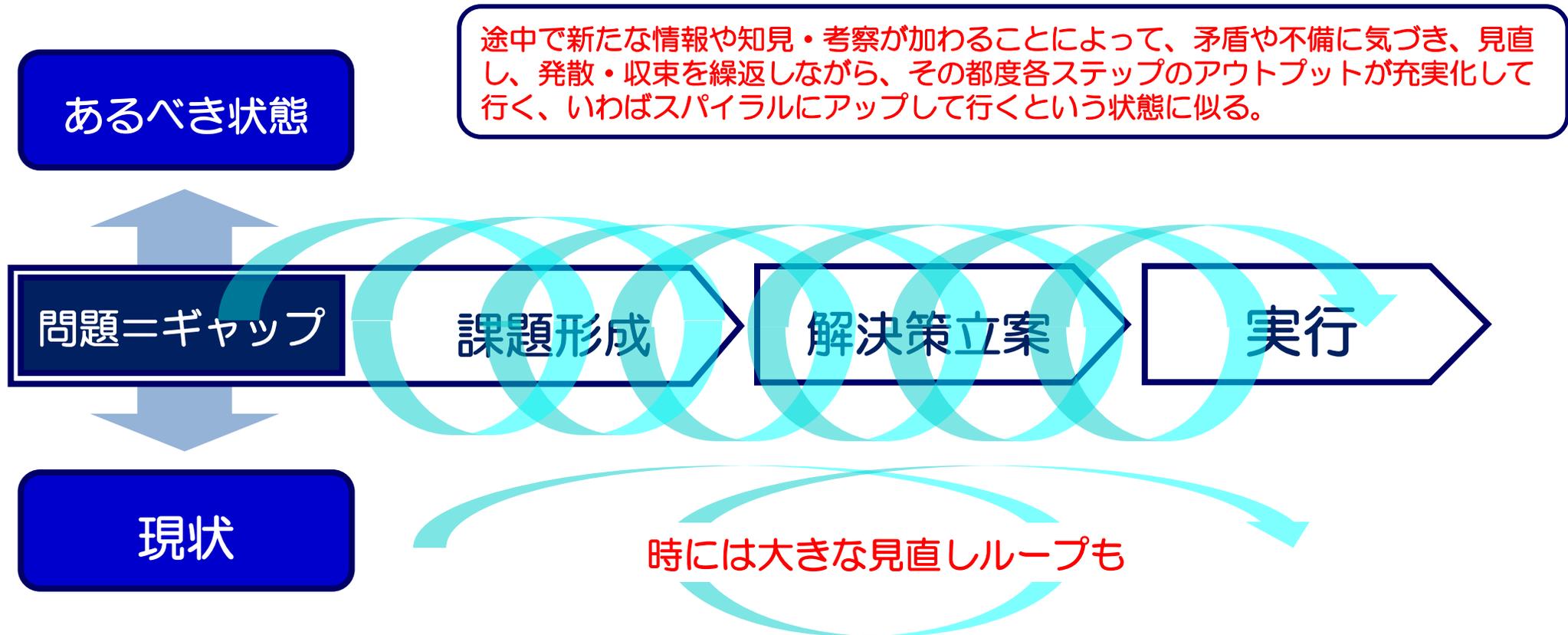
# 問題に応じて異なる各プロセス・ステップの重み

問題解決の各プロセス・ステップの重要度は目的・背景や問題の性格に応じて異なるものであり、状況に応じて重みづけを変え、柔軟に臨機応変に取り組むべきである



# 見直し・繰返ししながら進む問題解決のプロセス

問題解決プロセスには一定のステップがあるが、たとえステップに沿って進めても、矛盾や不備に気づき、途中で元のステップに戻って見直す、または発散・収束の繰返しの必要が生じるものである



例えば、前提条件の設定、課題形成、目標・ゴールの設定、解決策の基本方向の設定、解決策の仮説検証等さまざまな場面で、再び新たな情報収集を要するなど、見直し・繰返しの必要性に気づくことになる。

# アイデア創出の方法（参考）

## アイデア創出の方法いろいろ

